

ケータイ・スマホ利用のライフスタイル研究（1）

ー ながら使用者のライフスタイル特性ー

○吉良 文夫（NTTドコモ モバイル社会研究所）、飽戸 弘（東京大学名誉教授）

キーワード：ケータイ、スマートフォン、歩きスマホ、ライフスタイル

【問題】

「歩きスマホ」に代表されるケータイ・スマホのながら使用は、事故等のトラブルの要因となる以外に、家族・友人等との団欒の場を与える悪影響が懸念されている。ケータイ・スマホのながら使用は、幅広い年代の様々な人々が行っている行為であり、その人のライフスタイルと関係していること推測される。本研究では、ケータイ・スマホの「歩行中の使用」、「食事中の使用」、「人ごみの中での利用」に着目し、基本属性（性・年代・職業等）やICT利用属性（所有端末、ICT サービス利用状況等）などのライフスタイルとの関係について検討した。

【調査方法・手続き】

全国の15～79歳の男女を対象に、性・年代・都道府県で割付、6926サンプル回収（Web調査 2019年1月）スマホ／ケータイを所有する6136サンプルについて、自身が普段行っているながら使用に関する3設問の回答結果（0～3点）に基づきクラスタ分析（k-means法）を実施、ながら使用のタイプを分類（表1）。基本属性やICT利用属性などのライフスタイルとながら使用のタイプとの関係についてコレスポンデンス分析を用いた数量化・分析を実施。

【結果・考察】

自身が普段行っている行動に関する設問「歩行中の使用」、「食事中の使用」、「人ごみの中での使用」を用いてサンプルを4クラスタに分類した結果、これら3つのながら使用を普段行わないタイプ（約5割）、全て行うタイプ（約2割）、主に人ごみ・歩行中に行うタイプ（約2割）、主に食事中に行うタイプ（約1割）となった。

性・年代とのコレスポンデンス分析の結果（図1）、より若い世代、女性よりも男性において、ながら使用を行う傾向が強く、男女による差異は30～50代にて大きかった。また、女性は男性よりも食事中の使用に偏っていた。職業別では学生・生徒に次いで教職員がながら使用を行う傾向があった。端末所有に着目すると複数端末所有者は全般的にながら使用を行う傾向が強く、PC非所有者は食事中の使用、共用PC所有者は人ごみ・歩行中での使用に偏っていた。ICTサービス利用状況に着目すると電子書籍、ゲーム、SNS更新・発信、動画・音楽に関するサービス利用者がながら使用を行う傾向が強かった（図2）。ケータイ・スマホのながら使用はICT利用の状況にも関係しており、現時点では特に若い世代で行う傾向が強いが、シニア世代でも徐々にながら使用を行う人の割合が高まることが考えられる。引き続き動向を注視していきたい。

表1 ながら使用状況に基づいたクラスタ分析結果

構成人数	1064	572	1130	3370	
構成比	17.3%	9.3%	18.4%	54.9%	
設問	クラス	全て行う	食事中	人ごみ・歩行中	行わない
歩行中の使用	2.16	0.99	1.33	0.08	
食事中の使用	2.33	2.24	0.55	0.12	
人ごみの中での使用	2.36	0.60	1.32	0.09	

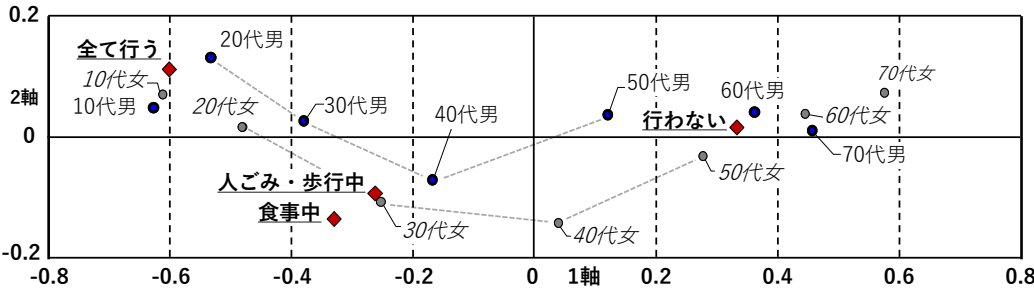


図1 ながら使用を行う人の属性の傾向（性・年代）

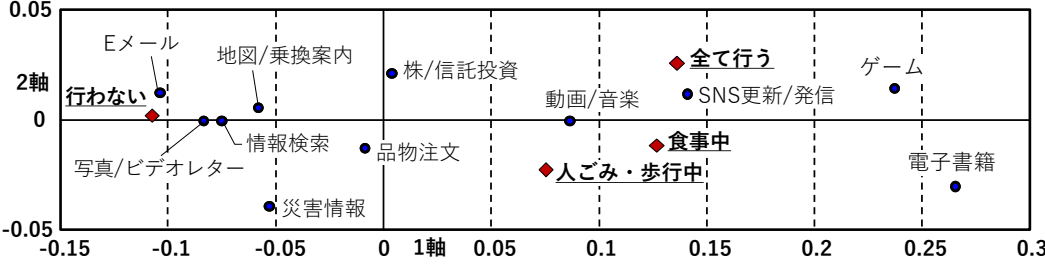


図2 ながら使用を行う人のICTサービス利用の傾向